

教材名： “いしかわ” と “ISHIKAWA”

主題名： 世界の中の日本人	内容項目： C (18) 国際理解, 国際貢献
---------------	-------------------------

- 1 **ねらい** 世界の中の日本人としての自覚をもち、自国の特徴や他文化への理解を深めようとする実践意欲と態度を育てる。

2 授業展開例

学習活動（主な発問と予想される生徒の反応）

◇ 国際交流の場を想起し、自分の対応について考える。

① あなたの家に外国人留学生がやって来ることになりました。あなたは、ホストファミリーとして、どのように関わりますか。

- ・観光名所につれて行く（兼六園、神社、寺、白山、美術館、博物館等）
- ・伝統工芸の体験をする（金箔、友禅、和太鼓演奏、能等）
- ・市場へ行き、日本の食文化を紹介する

◇ 教材「外国の人から見た“いしかわ”のよさ」を読んで話し合う。

② ジャスティンさんは、どうして日本（石川）のよさに気付くことができたのでしょうか。

- ・日本の文化を学ぼうとする姿勢があったから
- ・自分の国のことだけでなく、日本の文化（異文化）に対する理解があったから

◇ 実際に国際交流している映像（映像資料2 小学校高学年）を視聴し、国際理解の大切さについて考える。

③ 世界の人と関わる時、どんなことが大切でしょう。

- ・表面的な日本のよさだけでなく、日本人の内にある素晴らしさを感じてもらうようにする
- ・自分が日本（石川）について学び、そのよさに誇りをもつことができれば、世界の人々に伝えることができる
- ・ジャスティンさんのように、自分たちも外国の方のことを理解することで、互いの理解が深まる

◇ 再度、国際交流の場を想起し、自分の対応について考える。

④ もう一度考えてみよう。あなたの家に外国人留学生がやって来ることになりました。あなたは、ホストファミリーとして、どのように関わりますか。

- ・観光名所や伝統文化について事前に調べ、その良さを知った上で、一緒に出かけたり体験したりする
- ・ゲストがどんなことを期待しているのかを知った上で、一緒に考えながら、互いのよさを伝え合うようにする

3 指導上の留意点及び工夫

- ・③では、「日本のことを知ってもらおうという一方的な態度で、日本のよさを伝えることができるのかな」と補助発問し、相互理解の必要性に気付くようにする。
- ・④では、導入での発問を再度活用することで、本時における変容を捉えられるようにする。

4 参考資料

- ・映像資料集2（小学校高学年）「22 ぼくの中のイタリア」

23 B案

教材名：“いしかわ”と“ISHIKAWA”	
主題名：日本人としての自覚	内容項目：C（17）我が国の伝統と文化の尊重、 国を愛する態度

1 ねらい 日本人としての自覚を深めることで、国を愛する心情を育てる。

2 授業展開例（ゲストティーチャーをG Tと示す）

学習活動（主な発問と予想される生徒の反応）
<p>◇ 日本や日本人のよさについて考える。</p> <p>① 日本や日本人のよさは、どんなところだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 治安が良いところ・ 礼儀正しいところ・ 歴史的な建物や文化・ 食べ物が美味しい
<p>◇ 生徒作文「静の内にある力強さ」を読んで話し合う。</p> <p>② 「私」は、日本や日本人のよさをどんなところだと思っているのでしょうか。その「私」の考えを、あなたはどのように思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 物静かで慎重なところ 私も、それは日本人の素敵などころだとは思いますが、時には自分の考えを主張するのも必要ではないか・ 礼儀正しく思いやりのあるところ 東日本大震災の時も、世界中の人から高く評価されたこういう部分を大切にしたい・ 「静」の内にある力強さをもっているところ ただ静かなのではなく、内に力強さをもっているのがいいと思う
<p>◇ A L Tが日本で暮らしている中で感じていることについて話を聞く。</p>
<p>◇ 自分との関わりで考える。</p> <p>③ 授業を通して考えたことを伝え合いましょう。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 日本の伝統や文化について、もっと知ることが大切だ・ 日本には日本らしいよさがあるから、それを誇りに思いたい・ 日本のよさを理解するためにも、外国のことを学ぶことが必要だ

3 指導上の留意点及び工夫

- ・ ③では、A L Tから外国と日本の違いや、日本のよさに触れた体験等を伝えてもらうことも考えられる。

4 参考資料

- ・ 映像資料集2（小学校高学年）「22 ぼくの中のイタリア」